

科 目 名	子どもの保健Ⅲ					開 講 キャンパス	神 園
担 当 者	葛 見 保 子						
開 講 年 次	2	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	選 択
授業の概要 及びねらい	集団保育の中で保育士に求められることは、子どもの心と体の健全な成長と発達を願い、一人一人に応じた保育援助を行うことである。乳幼児の養護、身体・生理機能の測定、神経系の発達の評価、事故と応急手当、疾病の主な症状に対する手当を習得させる。更に保育における環境衛生、集団保育における保健活動を学ばせ、保育の現場において実践できる応用の能力と技術を習得することをねらいとする。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 子どもの保健の意義と基本について述べることができる。 2) 保育者の自己管理と必要性について述べることができる。 3) 健康状態の把握と意義について述べることができる。 4) 日常生活の養護について取り組むことができる。 5) 乳幼児の発育・発達を評価することができる。 6) 乳幼児の生理機能を測定し、身体の異常に気づくことができる。 7) 身体の清潔と歯の健康の必要性について述べることができる。 8) 乳幼児の主な疾病について理解し、症状に応じた手当ができる。 9) 事故に応じた応急処置ができる。 10) 保育所における事故と安全対策について述べることができる。 11) 保育における環境衛生について取り組むことができる。 12) 集団保育における保健と安全について取り組むことができる。						
学 習 方 法	講義及び演習、ビデオ視聴、小テスト（単元終了後実施する。定期試験は実施しない。）						
テキスト及 び参考書等	1) 子どもの保健演習ガイド 高内 正子 編著 建帛社 2) 幼児安全法講習基本 日本赤十字社						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標						評価割合%
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	◎				60	
宿題・授業外レポート		○				10	
授業態度			◎	◎		20	
受講者の発表							
授業への参加度				○		10	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	演習の意義と基本・乳幼児の健康と観察					講義・演習	
第 2 週	乳幼児の養護（抱き方、背負い方・衣服の着脱）					講義・演習	
第 3 週	乳幼児の養護（乳幼児の排泄の世話とおむつ交換・排泄の自立の援助）					講義・演習	
第 4 週	乳幼児の養護（食事の世話、人工栄養の調乳方法と与え方）					講義・演習	
第 5 週	乳幼児の養護（離乳食と介助・幼児食の世話としつけ）					講義・演習	
第 6 週	乳幼児の身体計測（身長・体重・胸囲・頭囲）と記録					講義・演習	
第 7 週	乳幼児の生理機能の測定（体温・呼吸・脈拍）と記録（各自の測定結果を記録する）					講義・演習	
第 8 週	乳幼児の感覚の発達の評価（視力検査・聴力検査の実際）（各自の測定結果を記録する）					講義・演習	
第 9 週	乳幼児の歯の健康（歯みがき指導）					講義・演習	
第 10 週	乳幼児の身体の清潔（沐浴）					講義・演習	
第 11 週	乳幼児の異常症状と手当（症状と手当の仕方・薬の使いかた・薬法）					講義・演習	
第 12 週	乳幼児の事故と応急手当（創傷・打撲・捻挫・脱臼・骨折・鼻出血・止血）					講義・演習	
第 13 週	園外保育と健康管理（健康観察・救急カバンの準備）グループで発表					講義・演習	
第 14 週	保育園における環境衛生と安全管理					講義	
第 15 週	集団保育における保健指導					演習	
第 16 週	まとめ						
備 考	演習の時間は、（講義・演習も含めて）上下の体操服・運動靴で参加してください。 講義・演習は、教室（121）と保育演習室（3104）を使用します。事前に連絡をします。						